

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用3 (Advanced Media Research Practice 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「不安社会」を生き抜く人間力を鍛える		
担当者名 (Instructor)	内野 雅一(UCHINO MASAKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

SNSが広がっている。現代社会は誰もがいつでもつながる「常時接続環境」になったかのようだが、実は常時「部分」接続環境でしかない。「部分」はそれぞれの「価値」で呼吸し、他の「部分」をヘイトする。つまり、脳がネットにハッキングされている。21世紀の実相はSNSなどのネットが人間社会を高度化させているのではなく、ギスギスした人間関係の蔓延なのである。人々は幸福にではなく、破滅に突き進んでいるといえる。授業では、「平成」が幕を閉じた現代社会の変容ぶりと、その背景を明らかにする。

Social media is spreading. In modern society, it seems that everyone is always connected but in fact people are only partially connected. Each part breathes in their values and hates other parts. In other words, the brain is hacked on the net. In 21st century, social media and other online mediums not make human society more sophisticated but rather foster stiff human relationships. We are marching not towards happiness, but towards destruction. In this class, students will understand transformations and contexts of modern society now that the curtain of Heisei era was down.

授業の内容(Course Contents)

講師は1981年、毎日新聞に入社し、主に経済報道に携わってきた。しかも、新聞記者だけでなく、経済週刊誌の編集、テレビのコメンテーターを経験した。同時に、伝書鳩は知らないが、電話からポケベル、スマホといった通信手段の多様な変遷を目の当たりにし、記事づくりの手書き、電話送稿、そしてパソコン入力への大変化に翻弄された。今、ネット社会化により「1億総メディア時代」とされる。だが、それは大きな間違いである。あふれるフェイクが人々を惑わしているにすぎない。メディアとは何かを常に念頭に置きながら、社会の変容ぶりを記事化し、さらに毎回異なるテーマを議論することで人間にとっての普遍的な「絶対価値」を探り、フェイクを見抜く人間力を装備する。

Professor has entered Mainichi Shimbun in 1981, mainly reporting on economics. In addition to being a news reporter, professor also edited economics weekly magazines and worked as a TV commentator. Although professor didn't know carrier pigeon, professor did witness various transformations in communication methods, from telephone to pager to smartphone. Professor was carried around in the great wave of change, including handwriting articles, sending drafts by telephone, and typing with PCs. As internet permeates our society, we are entering era in which everyone is media broadcaster. But this is not correct. Overabundant fakes are merely confusing people. Students will always bear in mind 'what is media' while writing articles on social transformations. By discussing different subjects each time, students will search for absolute values common to all human and learn to see through fakes.

授業計画(Course Schedule)

1. 新聞と週刊誌と書籍とテレビとネット メディアとしての違い
2. ディスカッション・テーマ「1989」 明治、大正、昭和、平成とは =人間は何を目指したか
3. 同「文明の衝突」 アメリカ的価値は普遍なのか =グローバルという不幸
4. 同「新自由主義」 永遠に続く「搾取」の好都合 =経済格差の拡大は必然
5. 同「失われた30年」 袋小路から抜け出せない日本 =リーダー不在の大迷走
6. 学内インタビュー実践①「コロナ禍後に大事にすべき価値とは何か」
7. ディスカッション・テーマ「成長神話」 新しい資本主義の意味と限界 =成長は「見果てぬ夢」
8. 同「老後不安」 人生100年という無理難題 =何のために生きるのか
9. 同「生命選択」 技術革新は全能の神ではない =科学優先か哲学優先か
10. 同「分断アメリカ」 揺れる本音と建て前の境界線 =コロナと不寛容病蔓延
11. 同「マッチ売りの少女」どっちから学ぶ「不便と便利」=動かなくなる人間って
12. 学内インタビュー実践②「個人主義は絶対的な価値か」
13. ディスカッション・テーマ「国の形」 行く先は「幸福」or「破滅」 =日本人である不必要性
14. あなたが考える「30年後の日本社会」 =あなたが50歳の時…

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、その週の新聞を必ず読んで授業に臨む。授業中に出された課題の作文(字数約400字)を次の授業に持ってくる。作文は

添削したうえで返却する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

複数回による授業中の作文(60%)/出席・議論への参加(40%)

テキスト (Textbooks)

なし(あえて言えば、新聞)

参考文献 (Readings)

1. 佐伯啓思、『西欧近代を問い直す』、PHP 文庫
 2. 佐伯啓思、『20 世紀とは何だったのか』、PHP 文庫
 3. 斎藤幸平、『人新生の「資本論」』、集英社新書
 4. 水野和夫、『資本主義の終焉と歴史の危機』、集英社新書
 5. ビル・エモット、『「西洋」の終わり』、日本経済新聞出版社
 6. サミュエル・ハンチントン、『文明の衝突』、集英社文庫
 7. デイヴィッド・パトリカラコス、『140字の戦争』、早川書房
- アンデシュ・ハンセン 『スマホ脳』新潮新書／田中理恵子『平成幸福論ノート』 光文社新書
鈴木伸元 『新聞消滅大国アメリカ』／幻冬舎新書／永野健二『日本迷走の原点 バブル』新潮社

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

毎回、テーマについてディスカッションを行い、学生との質疑応答を活発に行う予定。時事問題に関心を持ち、積極的な受講態度が期待される。課題の作文については毎回、コメントをする。

注意事項 (Notice)